

工事説明書

ガスビルトインコンロ [設置フリータイプ]

型式名

DC2016S・C2C16KS

誤った機器の設置を行った場合の危害・損害の程度を、次のように区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
お願い	使用者が安全に快適に使用していただくために理解していただきたい内容です。

- 禁止
- 必ず守る
- 分解禁止

設置される方へ (この「工事説明書」を設置前に必ずお読みください。)

注意 必ず守る 設置するときは、可燃物との距離を確実に離す。火災の原因になります。

- ・周囲の壁が不燃材料以外で、トッププレートに貼付の防火性能評定品ラベルに記載されている離隔距離を確保できない場合は、絶対に設置しないでください。どうしても設置しなければならない場合は、必ず別売の防熱板を取り付けてください。防熱板を取り付けなかった場合、火災のおそれがあります。※仕上げの構造が確認できない場合は、必ず防熱板を取り付けてください。
- ・この機器は、単独設置タイプですのでオープンとの接続はできません。

警告 必ず守る 機器を安全にご使用いただくため、この工事説明書をよく読んでから、有資格者による指定された設置を行う。

警告 必ず守る 建築基準法、当該地区の市・町・村の条例、消防法、ガス事業法、液化石油ガス法、「ガス機器の設置基準および実務指針」(一般財団法人日本ガス機器検査協会刊)に従う。

禁止 トッププレートに衝撃や荷重を加えない、上にのらない。トッププレートが変形し、異常過熱や火災の原因になります。

注意 分解禁止 設置で必要としない箇所以外に絶対に改造・分解は行わない。一酸化炭素中毒のおそれがあります。また、火災の原因になります。

お願い 乾電池を抜かずに器具栓つまみを「点火の状態」で放置しないでください。乾電池の消耗が早くなります。乾電池を使用しているガス機器を大型ゴミなどで廃棄される場合は、必ず乾電池を取り外してください。そのまましておきますと思わぬ事故になることがあります。

- ・この工事説明書に基づいて、設置されていることを確認してください。
- ・設置が終了したら、設置後の点検確認のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。
- ・この工事説明書の記載内容から外れた設置が原因で生じた故障および損傷は、保証期間内であっても保証の対象とならないので注意してください。
- ・設置終了後、保証書(取扱説明書に記載)に必要事項を記入し、必ずお客さまに渡してください。
- ・取扱説明書に従って、お客さまに機器の操作方法など、取り扱い説明をしてください。



ケ J10-01

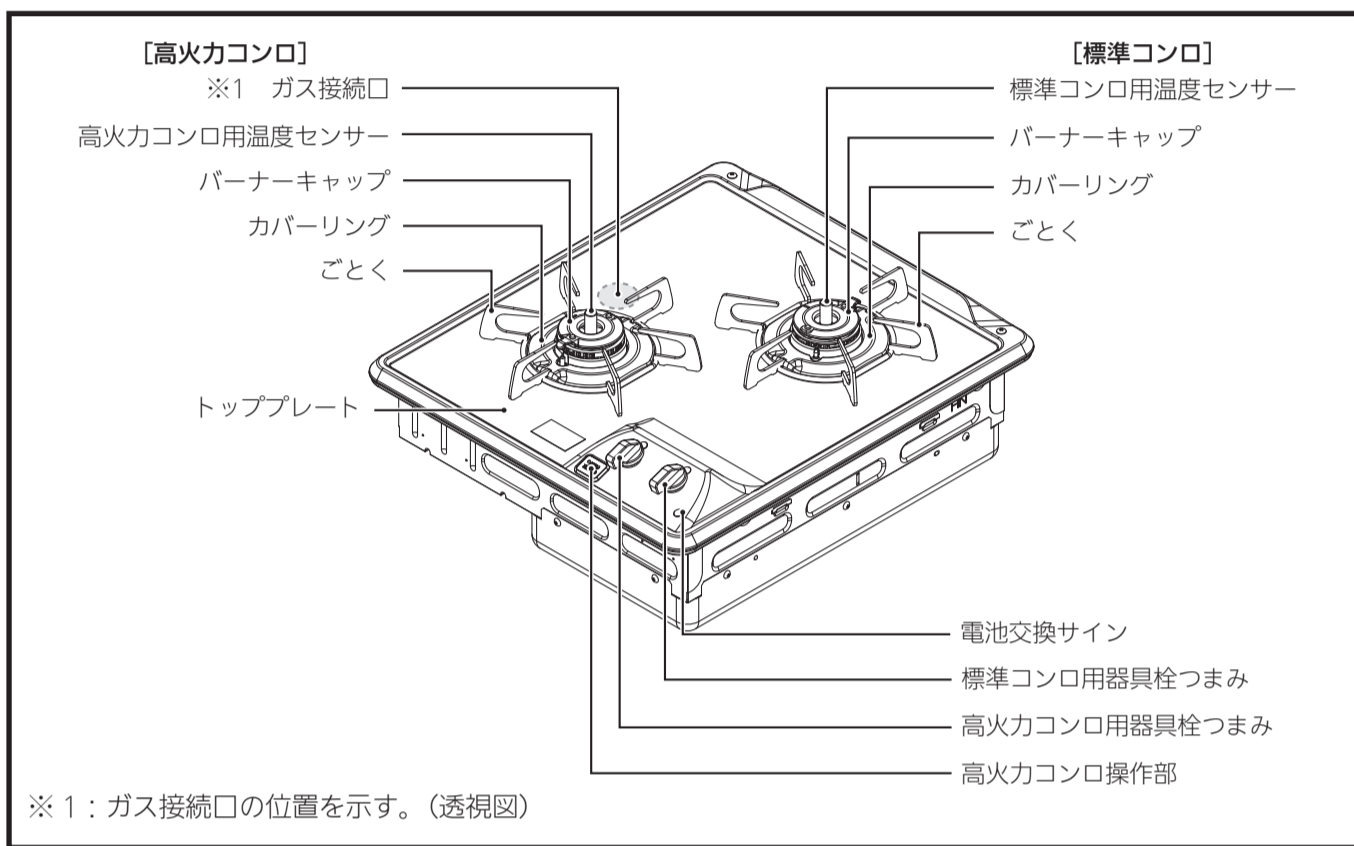
開こん

◎同こん部品・付属品の確認

次の部品が同こんされています。不足のないことを確認してください。

部品名	形状	個数	部品名	形状	個数
バーナーキャップ <高火力コンロ用> ※高火力コンロには、バーナーキャップに「H」マークを表示しています。		1	お試し乾電池単1形		2
バーナーキャップ <標準コンロ用>		1	取扱説明書(保証書付) 工事説明書		各1
ごとく		2	トッププレート 固定用ネジ×2		1
カバーリング		2	トッププレート 固定用ネジ×6		1
器具栓つまみ		2			

各部のなまえ



設置前の注意

◎設置する機器の確認

設置する機器が、ご使用になる目的、用途に適合していることを確認してください。

注意

銘板(トッププレートに貼付)に表示してあるガスに適合していることを確認する。火災、不完全燃焼、異常着火のおそれや、機器が故障する原因にもなります。

ガス種異なる地域へ転居した場合は、部品交換や調整が必要のため注意する。爆発着火や不完全燃焼の原因になります。

この機器は家庭用の調理以外の用途には使用できないため、用途を確認し設置する。火災・不完全燃焼・機器の故障の原因になります。

◎設置場所の確認

設置場所をお決めになるときは、次の事項をよく確認してから決めてください。

注意

設置するガス機器および同一室内に設置してある他のガス機器のガス消費量に対し、十分な換気設備がある場所に設置する。他のガス機器と同時に使用した場合、不完全燃焼による一酸化炭素中毒のおそれがあります。

設置場所を決めるときは、お客さまとよく相談し、安全な場所で、周囲に危険物・可燃物などがなく、火災の危険がない場所に設置する。

水平で丈夫な場所に設置する。

保守メンテナンススペースが確保されていることを確認する。設置後、トラブルの原因になったり、点検・修理に支障をきたします。

引火性の危険物(ガソリン・灯油・ベンジン・接着剤など)や、業務用薬品(アンモニア、硫黄、塩素、エチレン化合物、酸類などの腐食性薬品)を周囲で保管したり、取り扱う場所には設置しない。

ガス機器は、ガス工作物、電気工作物などの他の設備に悪影響を与えない位置に設置する。

棚の下など落下物の危険がある場所や樹脂製の照明器具、ガス湯沸器の下には設置しない。火災のおそれや思いがけない事故の原因になります。

この機器は家庭用のため、業務用として使用する場所に設置すると著しく機器の寿命が短くなります。

コンロ下部キャビネット裏側は、外部から風などの影響を受けない構造にする。

- ・右図のようにガス配管貫通部など建物構造上内気と外気がつながり、図1のような異常な空気の流れが起こるのでキャビネットに背板をもうけるか、図2のように仕切板(ベニヤ板など)により機器の後方をふさいでください。

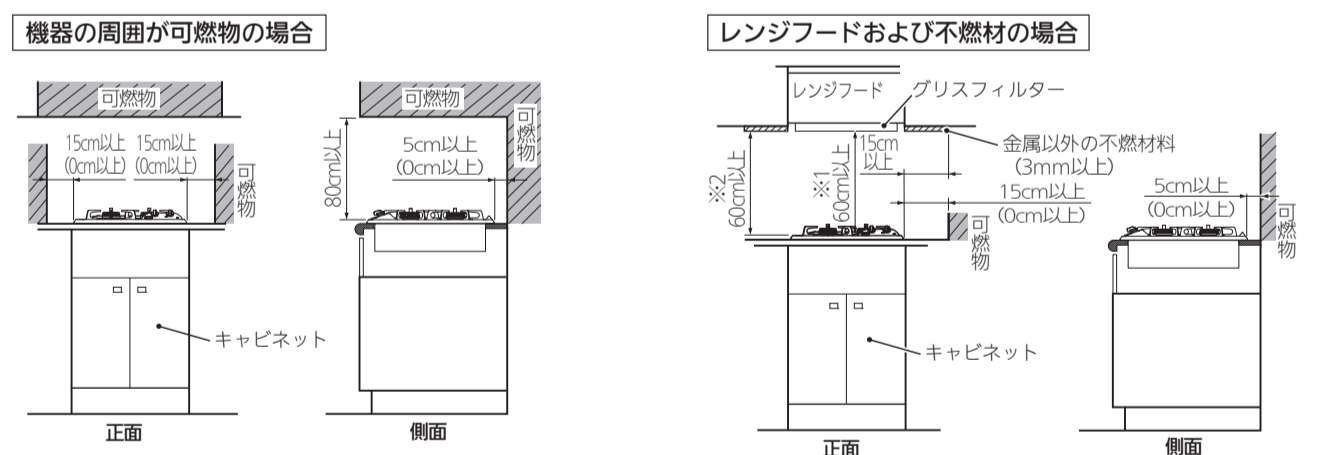
コンロの炎がゆらいだり・消えたり、異常燃焼や機器焼損のおそれがあります。

- ・上記のほか設置場所について、次のことを守ってください。
- ・冷暖房装置の吹き出し口近くや、強い風が吹き込み場所に設置しない。

機器の設置

◎防火上の離隔距離

- 注意**
- ・機器を設置する周囲の壁などが、防火上安全な場所かまたは、防火上有効な間隔を確保することが出来る場所に設置してください。
 - ・この機器は防火性能評定品です。
- ※機器の周囲の可燃物(可燃材料、難燃材料または、準不燃材による仕上げをした建物の部分も含む)とは、トッププレート上部に貼り付けの防火性能評定品ラベルに基づき下図の離隔距離を確保してください。



- ※()内は、周囲の壁を不燃材料で有効に仕上げた部分もしくは、防熱板を取り付けたときの寸法です。
- ※1 レンジフードファン以外の場合は80cm以上。
- ※2 不燃材料がない場合もしくは、金属以外の不燃材料3mm未満は、80cm以上。

- ・上記離隔距離がとれない場合は、必ず防熱板による防火措置を行ってください。

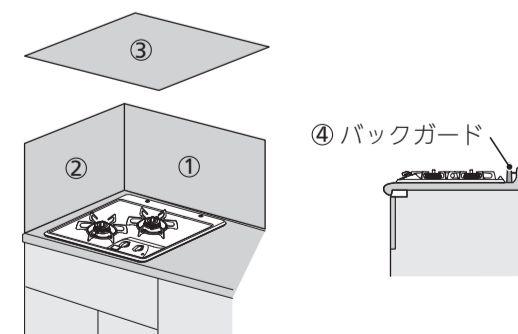
- ・防熱板は、4種類用意しています。用途に適した防熱板を選んでいただき、正しく取り付けてください。
- ※取り付け方法は別売の防熱板に同こんされている「取付説明書」をご覧ください。

コード番号	高さ(mm)	幅(mm)
① LP 0105	350	600
② LP 0106	350	535
③ LP 0107	550	900
④ DP 0101	90	600

※DP 0101はワークトップ後部の立ち上がり用

注意

防熱板(別売品)は、必ず指定のものを使用する。防熱板に同こんされている「取付説明書」に従って正しく取り付けます。防熱板を取り付けないと、火災の原因になります。



※イラストはイメージ図です。

防熱板のお求めは、お買い上げの販売店または、弊社窓口(取扱説明書の裏表紙連絡先参照)に連絡してください。

